

64 解毒薬

急性中毒患者は一見状態が悪くないようにみえても、時間経過とともに悪化して生命の危険が生じる可能性があるため、患者の全身状態を把握し、一般的な生命維持の原則であるA：気道、B：呼吸、C：循環の優先順位に従って評価と蘇生的な緊急処置を開始する必要がある。全身状態が安定したら神経症状と体温を確認する。中毒原因物質に対しては、まず、吸着剤や下剤による消化管除染も含めた除染を行い、体内への吸収を阻害し、さらに強制利尿や血液浄化法により排泄を促進する。多くの場合、初期診療の場面では中毒原因物質の分析結果は間に合わないため、病歴と臨床症状(トキシドローーム)から推定し、特異的な解毒薬や拮抗薬が有効と考えられれば、確定診断を待たずに可及的速やかに投与する。中毒原因物質は医療用医薬品に限らずOTC医薬品や日用品、自然毒など多岐にわたるため、予め解毒薬の有無やその作用機序を把握しておく必要がある。

治療の指針・ポイント

◆胃洗浄

- ①毒物を経口的に摂取したのちで、大量服毒の疑いがあるか、毒性の高い物質を摂取した症例に適応がある。摂取してから時間が経過するほど効果が下がるため、基本的には**1時間以内**に実施することが望ましい。腸管蠕動の抑制や、胃内で塊になりやすく胃内容物の停滞が考えられる場合は、数時間が経過していても胃洗浄を試みてよい。
- ②意識レベルの低下や痙攣を生じているときは、咽頭反射の減弱から誤嚥しやすいので、気管挿管をしてから行う。

◆吸着剤

- ①消化管内に残存する未吸収薬毒物を除去する目的で**活性炭**が使用される。中毒原因物質が吸収される前に、できるだけ早期(**服毒・誤飲後1時間以内**)に投与することが推奨される。
- ②活性炭のほかに、ポリスチレンスルホン酸ナトリウムやポリスチレンスルホン酸カルシウム、コレステラミンが用いられることがある。

◆緩下剤

- ①緩下剤は通常、活性炭の投与後に使用し、①活性炭・中毒物質複合体の消化管通過時間を短縮させる、②活性炭による便秘を防止する、③消化管通過時間の短縮により活性炭からの中毒物質の解離を少なくし、解離した中毒物質が再吸収される時間を短くするために用いられる。
- ②**塩類下剤**(硫酸マグネシウム等)もしくは**糖類下剤(D-ソルビトール)**が使用される。

◆強制利尿

中毒原因物質の排泄を促進することを目的として、時間尿量250~500mLを目標として輸液負荷と利尿薬投与を行うことが多い。さらに尿中への排泄を促進するため、尿のアルカリ化を行う場合がある。

SAMPLE